

# 2022 (R4) 年度 さがみはら市民活動サポートセンター事業報告書

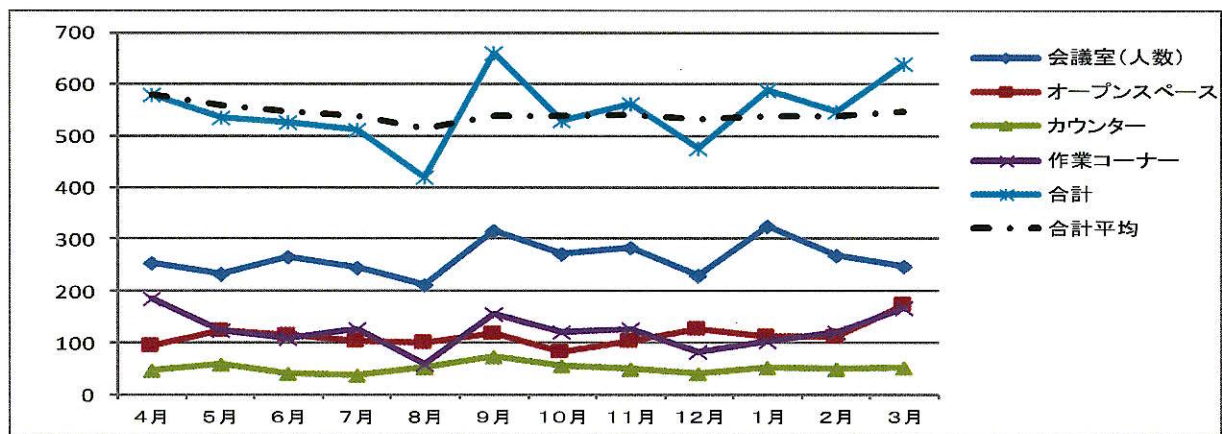
## I. 会議室、作業スペースなどの提供に関すること (事業計画書 3) による)

### 1. 利用者数

図表 1

2022	2022									2023			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
会議室(人数)	254	232	265	246	211	315	271	283	230	326	268	249	3,150
オープンスペース	95	122	113	104	99	116	81	104	125	110	112	174	1,355
カウンター	45	59	41	37	51	72	56	49	40	51	48	51	600
作業コーナー	187	122	109	125	58	156	121	127	82	103	120	167	1,477
合計	581	535	528	512	419	659	529	563	477	590	548	641	6,582

図表 2

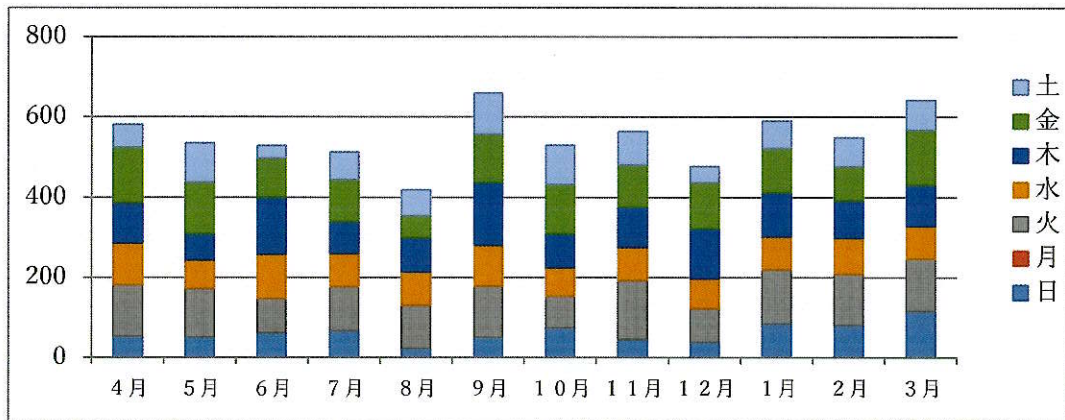


### 2. 曜日別利用状況

図表 3

	2022									2023			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
日	54	52	62	68	23	51	75	47	40	86	81	116	755
月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
火	128	120	86	109	108	128	79	146	83	134	128	131	1,380
水	103	71	110	82	82	101	70	82	74	81	89	81	1,026
木	102	66	142	80	86	157	85	100	125	111	94	103	1,251
金	137	130	98	105	55	120	124	106	115	110	85	136	1,321
土	57	96	30	68	65	102	96	82	40	68	71	74	849
合計	581	535	528	512	419	659	529	563	477	590	548	641	6,582

図表 4

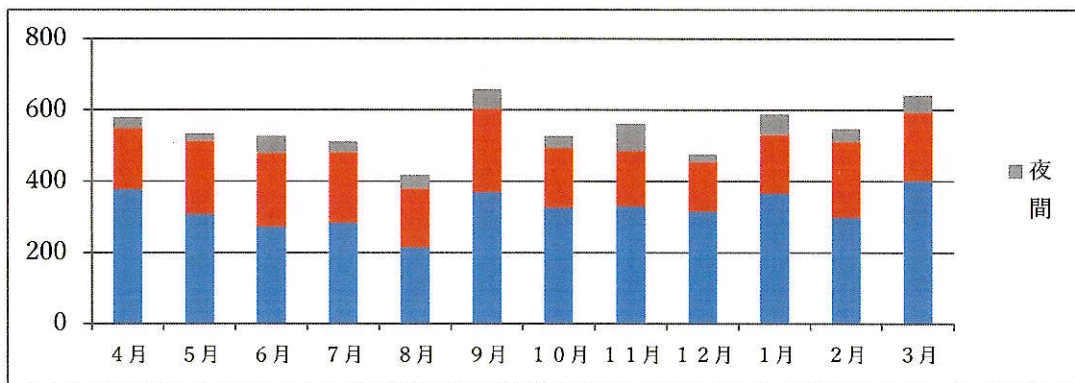


### 3. 時間帯別利用状況

図表 5

2022	2022										2023			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
午前	378	308	273	283	215	370	327	331	316	366	299	401	3,867	
午後	173	206	208	200	165	234	169	155	140	166	213	193	2,222	
夜間	30	21	47	29	39	55	33	77	21	58	36	47	493	
合計	581	535	528	512	419	659	529	563	477	590	548	641	6,582	

図表 6

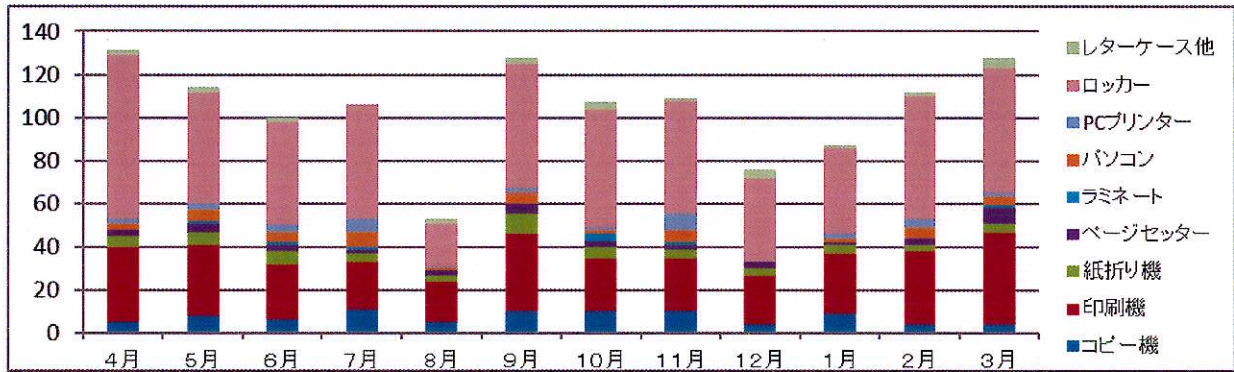


### 4. 各種利用件数

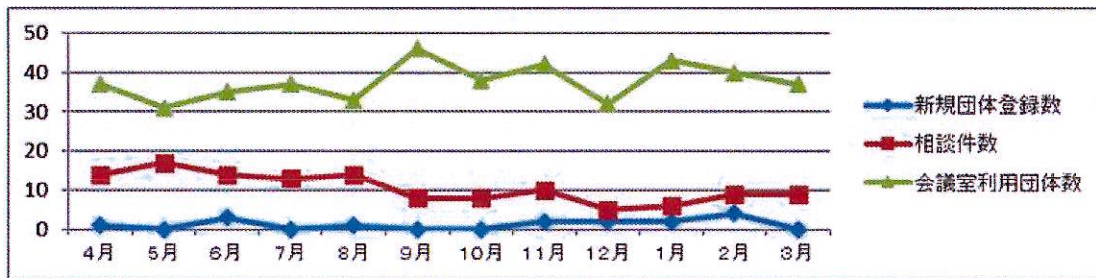
図表 7

2022	2022										2023			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
新規団体登録数	1	0	3	0	1	0	0	2	2	2	4	0	15	
相談件数	14	17	14	13	14	8	8	10	5	6	9	9	127	
会議室利用団体数	37	31	35	37	33	46	38	42	32	43	40	37	451	
設置機器	コピー機	5	8	6	11	5	10	10	10	4	9	4	4	86
	印刷機	35	33	26	22	19	36	25	25	23	28	34	43	349
	紙折り機	5	6	6	4	3	9	5	4	3	4	3	4	56
	ページセッター	3	4	3	2	2	5	3	2	3	1	3	7	38
	ラミネート	0	1	1	1	0	0	3	1	0	0	0	1	8
	パソコン	3	5	5	7	1	5	2	6	0	2	5	4	45
	PCプリンター	2	3	3	6	1	2	1	7	0	2	4	2	33
	ロッカー	76	52	48	53	20	58	55	53	39	40	57	58	609
	レターケース他	2	2	2	0	2	3	3	1	4	1	2	5	27
合計	131	114	100	106	53	128	107	109	76	87	112	128	1,251	

図表 8



図表 9



## 所 見

図表 1-2 から、各月ごとの利用者に大きな増減は見られない。図表 3-4 から、平日はいずれの曜日も 1,000 人を上回っている。若干ではあるが、火曜、金曜が多いため、令和 5 年度の開館時間検討のエビデンスとした。図表 5-6 によれば、8 月、12 月に 500 人を下回っており、9 月はその反動と推察できる。なお 1 月は年始休業があるため 12 月の反動が 9 月ほどではなかった。また多くの市民活動団体の総会が 4-5 月に行われており、3 月から総会準備にかかる団体があるため利用者人数が 600 を超えた可能性がある。

今年度の利用に関しては、令和 4 年 3 月 13 日からコロナへの対応状況が変化した。これにより、感染状況を見ながらではあるが、徐々に活動し始める団体があったと考えられる。図表 5-6 の時間帯においては、午前が最も多く、次に午後となるが、夜間において午後と比較しても 25%に届かない。午前の時間帯は 9 時から正午の 3 時間であり、午後は正午から 17 時、夜間は 17 時から 21 時のデータであることは、分析としては審議を要するが、それでお午前が多い。これは、市民活動に関わる人々が職業をもたない高齢者であると考えられ、働く世代が市民活動に関わるためには、ある程度の夜間利用者数があると考えられる。

これらのことから、令和 5 年度のサポートセンターの事業に関して、市民活動団体のみならず、広く市民に周知する広報活動に力を注ぐこととする。

## II. 市民活動団体等の紹介や相談等への回答・助言に関すること

### 1. 市民活動団体の紹介（事業計画書 1）による）

#### （1）ボランティア情報誌『笑顔』の発行と配布

目 的：当センターの情報発信とともに、市民活動の周知と、市民の協働意識を高める一助となる事を目的とする。

進 捗：登録団体のみ掲載であるため、掲載に関する調査書を 10 月 15 日に発送（ナウ 99

号に同封) 回収締切を11月末日とする

掲載団体数 : 56 団体

印刷部数 : 2000 部

省 察 : 掲載項目、内容に関しては2020年度の改編で作成。例年の印刷会社で変形印刷を受付しておらず、印刷会社に依頼したため予算を大きく上回ってしまった。

## (2) サポートセンター『登録団体名簿』の発行と配布

目 的 : 当センター登録団体を活動分野ごとに掲載し、団体の活動及び発表の場を広げる。そのため、団体の主な活動内容の欄を設け、広く一般に周知することを目的として作成する。今年度は、市民活動に関する社会的課題からの影響により、登録団体名簿の作成以前に、団体の定款および会員名簿（一部でも可能）を登録票とともに収集することを先決とし、登録状況の確認及び更新作業を優先する。

進 捗 : 当初、定款と会員名簿の未提出団体のみを請求と、その他の登録団体には、更新手続きのみと考えていたが、この機会に確認の意味も含め、全団体に同内容の連絡を郵送することとし11月末、作業開始した。登録団体への通知は2023年3月21日付けで発送し、回収期限を5月31日とした。したがって、次年度以降に引き継ぐ。

## (3) さぼせんナウのコーナー設置

目 的 : 登録団体が、自身で紹介文を作成することで、所属する団体の活動を振り返り、限られた文字数でまとめるため、周知したい重要な活動内容に気づく。一般を含めた読者に、自分たちの活動の趣旨や、活動内容の発信を学ぶ機会とする。

第96号(4月発行)～第100号(2023/3月発行)

コミュニティ活性化・ラボさがみはら

ブラインドICTサポート

たくみ21

MOA美術館 相模原市児童作品展実行委員会

(第100号は20周年特別版の為掲載なし)

## 2. 市民活動全般に関する相談業務 (事業計画書 2)による)

図表 10

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
午前	7	8	4	5	5	3	4	6	3	3	3	1	52
午後	6	9	8	7	9	4	4	3	1	1	6	6	64
夜間	1	0	2	1	0	1	0	1	1	2	0	2	11
一般合計	14	17	14	13	14	8	8	10	5	6	9	9	127

### 所 見

一般相談の時間別件数について、午後が多いことは、時間環境に公平性がないことも含まれる。午前は9時から12時としているのに対し、午後は12時から17時と長時間である点が要因と考えられる。データ収集時に調整可能であれば、修正を試みる必要性を感じている。

図表 11 にある項目別については団体に関する問合せが突出している。具体的にはこどもの人権に関する個人的で重篤な相談問合せが多く、窓口での対応は相談者が指定する団体の連絡先を紹介する、または個人的な相談対応ができないとの対応に留めている。

一般相談は窓口対応が基本となり、問合せの類が多い。センター事業に分類し、案内できるよう業務の構築が必要と思われる。一般相談を事業の情報源とし、継続案件として各事業につなげられるよう、記録書式を含めて精査検討したい。

### III. 市民活動団体運営基盤強化に関すること

#### NPOの基盤強化をより一層推進するためのNPOに関する相談会の開催(事業計画書 5)による)

※ 図表 14 の相談内容は、1 件の相談で、多岐にわたる内容の場合があるため、合計数と異なる。

図表 12

相談会月別件数													単位: 件数
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
2	3	2	3	1	0	3	2	2	5	7	4	34	

図表 13

相談会	区別相談件数												合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
サポセン		1	1	2	1		1	1	2	3	2	1	15
ユニコム	1	1		1				1		1	2	3	10
ソレイユ	1		1			1					2		5
森ラボ		1					2			1	1		5
合計	2	3	2	3	1	1	3	2	2	5	7	4	35

#### 所見

今年度の相談会における相談内容は設立に関することが多いことから、活動を継続してきた団体のほかに、市民が生活課題や地域課題に気づき始め行動を起こそうという動きがあると捉えることができる。これは、既存の団体の広報活動もさることながら、自分たちで解決しようとする市民が立ち上がった可能性も考えられる。とすれば、今後のサポートセンターの役割として、市民が市民のために活動をするコンセプトの事業展開を考える必要がある。

### IV. 市民活動に役立つ情報の収集・提供に関すること

#### 1. 広報紙「さぽせんナウ」の発行(事業計画書 1)による)

- ・印刷部数: 各号 1500 部
- ・96 号~100 号 通常通り偶数月発行
- ・101 号 サポセン 20 周年式典記事掲載の為 2023 年 3 月発行とした。

図表 11

#### 一般相談 相談項目別件数

相談項目	合計
設立	4
人材	2
広報	9
交流	3
企画	2
経理	2
税金	0
資金	13
事務所	0
活動拠点	4
団体情報	27
ボランティア	6
たすかるバンク	7
その他	66
合計	145

※ 相談項目別件数のため、相談件数とは異なる。

図表 14

相談会	項目別件数	合計
設立		20
人材		4
広報		5
交流		4
企画		3
経理		3
税金		1
資金		9
事務所		0
活動拠点		4
団体情報		3
ボランティア		1
その他		7
合計		64

・送付先（含庁内便）

サポートセンター登録団体	367 団体
市内NPO法人	33 団体
市内公共施設	92 ヶ所
大学等（相模原・町田）	22 ヶ所
たすかるバンク人材登録者	42 名
県内中間支援施設等	25 ヶ所

合計 1,115 部 配布（送付）

※ 大学は、送付名が大学とボランティアに関するセンターの双方に郵送した大学もある。従って、1 件の大学で複数施設としてカウントしている場合がある（青山学院大学・桜美林大学・法政大学）

・ 随時配布：講座・イベント参加者等

・ 主な内容

サポセン事業の告知・報告／団体活動・新規登録団体／助成金情報／相談会日程／協働推進課からのお知らせ等

図表 15



## 2. ホームページ・メールマガジンによる情報発信の充実

### （1）ホームページ

登録団体に限らず、市内のイベントや市民活動団体によるイベントのほか、団体のPRを含めた情報発信。

※ サポセン主催講座やイベントをアップする場合、これまでは pdf の申込み票を添付していた。しかし pdf の資料は、閲覧者が PC で書き込みを行う際、Word・Excel に変換が必要になっていた。したがって、周知の時点で Word や Excel 版（作成時のソフト）もアップロードし申込み者が書き込みやすく広報することを心掛けた。

### （2）メールマガジン

#### 所 見

2022 年度は配信者数 550 名を目標とし業務遂行。講座終了後のアンケートから申込みが 7 名である。前年度末 537 件の配信数だが、2022 年度末においては 567 件と増加している。講座受講者のアンケート用紙に、メルマガ申込みを記入したことにより、個人の受信者が増加していることが考えられる。このように他事業からの申込みが可能になる様、メルマガの広報に関して新規に開拓したい。

## 3. タウンニュース「さがみはらの輪」への団体情報掲載

・ 2022 年度 申込み 6 件 掲載 6 件

## 4. 「さぼせんナウ」へのチラシ同封サービス

・ 2022 年度 5 件

## 5. FMさがみ「竹中通義モーニングワイド“市民活動 hot リポート”」にて団体紹介

《市民会議スポンサー》

- ・放送日：毎週火曜日 9時5分から 5～10分程度
- ・内容：パーソナリティによるインタビューで  
市民活動団体の活動紹介  
(毎月第1火曜日はサポセンの事業紹介)
- ・出演方法：スタジオ若しくは電話で生出演  
原則1ヶ月3団体 年間：36団体出演
- ・選出方法：登録団体の中から分野・活動内容を検討し、  
サポセンが依頼
- ・記録：出演コーナーをネットラジオで録音。団体が希望する場合は提供。

図表 16



## 6. サポセン展示コーナーの活用

- ・サポセン会議室前に「サポセンギャラリー」のコーナーを設けている。団体による活用は、作品の掲示・展示、パネル掲示、ほかイベントの写真展示も可能。掲示期限はおおむね1か月

### 所見

コロナの影響もしくはPR不足か、近年の利用申し込みがない。凹凸のある塗り壁のため、壁面に塩ビパネルを施して実施していた。しかし、パネル自体がはがれるなど作業に適しているとは言えず、展示コーナーとしては厳しいと思われる。また、団体のニーズは、一般市民への周知と考えるならば、サポセン内の掲示に効果が少ないと団体を感じている可能性も考えられる。従って今後、ギャラリーとしての活用以外も検討したい。

## V. 市民活動の活性化に資する学習機会の提供に関すること

### 1. 市民活動基盤強化講座 (事業計画書 4) による)

#### (1) 【NPO基礎講座・ステップアップ講座】 全4回開催

趣旨：市民が自らの課題解決の主体となる市民活動の周知及び市民の協働意識を高めることをねらいとする。目的として、参加者がNPOとNPO法人の違いを理解し、市民活動の法人化の事務作業について知る機会とすることとし各区及び森のイノベーションラボで実施。

講師：水澤弘子総括責任者・行政職員・東京地方税理士会 相模原支部所属税理士

対象：一般市民（市民活動に興味がある方、活動を始めようと考えているかた）、市民活動の法人化を考えている市民活動団体の方

定員：10名（感染症対策により、会場定員数の半数以下）

参加費：500円（資料代として）

#### NPO基礎講座「はじめの一步」

第1回： 5/31（火） 南区会場 申込み 5名 参加 5名

第2回： 10/6（木） 中央区会場 申込み 2名 参加 1名

第3回： 12/6（火） 緑区会場 申込み 2名 参加 1名

### 「ステップアップ講座」

2/4（土） 申込み 6名 参加 6名

（所 見）

講座の目的である2点の設問をアンケートで回答を促したところ各回いずれも「理解できた」「知ることができた」にチェックがあり、講座の目的は達成されたとと言える。しかしながら定員充足率は低迷している。広報が、市報のほかチラシ配架だけでは不十分と考え、9月以降は駅の掲示板も申請利用したものの申込み増加もなかった。市民活動に関して、いくばくかの知識があったうえで申込をする参加者にとっては十分な内容と言えるが、一般的には市民活動に対する興味関心が希薄化している可能性が考えられる。配架しているチラシには、NPOの文字も大きくしており、リード文にはNPOと市民活動の双方を入れているが、効果がなかったことから、市民活動の啓発活動に事業を移行することも検討したい。

### （2）【NPOの会計講座】 全4回開催

趣 旨： 市民活動の活性化のため、会計事務がNPOの会計の基本や法人運営にとって必要である会計事務に関して、その役割の知識を学び、演習によって課題点を具体化することを目的とする。また具体化された疑問、課題に関して個別相談の場として終了後に時間確保をする。

講 師：東京中央税理士会相模原支部より（米山 智則他）

対 象： 市民活動に関係する市民、法人化を検討中の市民活動団体会員

定 員：10名（感染症対策により、会場定員数の半数以下）

参加費：2,000円（4回分資料代として）

申込み：9名（第4回に個別相談申込2名あり、参加者に加え最終回のみ11名）

実施日：10/15・11/19・12/3・2023/1/21 いずれも土曜日 14:00～16:00

所 見：参加者の情報源は、講座のチラシと友人知人の誘いが同票5名であり、HPからの参加もあった。会計講座はチラシの効果が大きいと判断できる。内容に関しては少し理解できたを含めると全員であり、知識を得ることができたことがわかる。連続講座であるため、実習が含まれており、参加者にとって疑問点が具体化された。回により、時間不足の感想もあったが、好評のうちに終了した。

図表 17



### （3）【伝わる！事業報告書の書き方】

趣 旨：総会時資料および、支援者への報告、さらには寄付を募る際に団体活動周知のための資料として活用できる報告書の具体的作成方法を学ぶことを目的とする。

講 師：相模原市市民協働推進課

日 時：2023年3月19日（日）14:00～16:00

定 員：10名（感染症対策により、会場定員の半数以下）

参加費：500円

図表 18



申込み：2名

※ 当初12月11日（日）の予定であったが、家族の体調不良につき改めて日程調整を行った結果、参加は1名のみ（ほか、水澤総括が参加）であった。

#### （4）【知っておきたい労務の基本】

趣 旨：雇用する側、される側の双方にとって必要な知識を習得し、NPO 団体が働きやすい場にするすることで、運営の基盤強化を目指す。今後の会員募集、イベント案内その他に活用できる PR 方法を団体が知識として取り入れたのち、実践することで活動意欲を増し活性化する。

講 師：特定社会保険労務士 原田恵一氏

日 時：2023年3月10日（金）14:00～16:00

定 員：10名（感染症対策により、会場定員の半数以下）

参加費：500円

申込み：2名

参加：1名

※ 当初予定していた12/11実施の前日、講師より連絡あり。家族の体調不良につき講座は中止とした。しかし、参加者より開催希望があり、参加者および講師と日程調整を行い3月に実施となった。

図表 19



#### （5）【オンライン講座】2回開催

第1回 広報活動の結果申込みがなかったため、中止とした。

#### （6）【動画制作講座】2回開催

趣 旨：今後の会員募集、イベント案内その他に活用できる PR 方法を団体が知識として取り入れたのち、実践することで活動意欲を増し活性化する。また、成果物はサポートセンターが、情報発信する素材とする。

講 師：番匠 一雅 氏（田園調布学園大学こども未来学部 教授）

日 時：2022年8月31日（水）13:30～16:00

2022年9月21日（水）13:30～16:00

定 員：10名（感染症対策により、会場定員の半数以下）

参加費：1,000円

申込み：11名（スタッフ1名含む）

参加決定者：9名（キャンセル1名・PC不適合1名）

第1回実施日時：8月31日（水）13:30～16:00

初回参加 8名

欠席 1名（JR事故による）

第2回実施日時：9月21日（水）13:30～16:00

2回目参加 7名（体調不良により1名欠席）

図表 20



図表 21



#### 所 見

参加者アンケートの、受講により団体活動の意欲に関する項目で

は「意欲が増した」「少し意欲が増した」を合わせると100%であることから、事業目的が果たせたという事ができる。また、連続の間隔については「3週間が妥当」の回答より「もっと短いほうが良い」との回答が多かったことから、次年度の計画を立てる際は、2回目までの間隔を短くしたい。

2回を通じて、参加者の満足度は10点が4名と8点が3名であったことから、本講座は事業継続が妥当であるといえる。

## 2. 市民活動活性化講座（事業計画書 2）による）

### （1）【助成金講座「申請手順とポイント」】

趣 旨： NPOの活動資金の一つである「助成金」の種類・申請時期、申請手順と審査のポイントを押さえ、活動を活性化することをねらいとする。市民ファンドゆめの芽、日本政策金融公庫 NPO 融資制度等についても紹介する。

講 師： 水澤 弘子（さがみはら市民活動サポートセンター 総括責任者）

相模原市市民協働推進課 市民ファンドゆめの芽 担当職員

日本政策金融公庫 厚木支店 国民生活事業 融資第二課 上席課長代理 那須優一氏

参加費： 500 円

定 員： 各 10 名

第1回： 4/21（木）13：00～15：00 森ラボ会場

第2回： 6/10（金）14：00～16：00 中央区会場 申込み 7名 参加 7名

第3回： 9/28（水）14：00～16：00 南区会場 申込み 4名 参加 3名

第4回： 11/24（木）14：00～16：00 緑区会場 申込み 3名 参加 2名

所 見

講座タイトルおよび講師は継続実施となっていることから、これまで参加がなかった団体に有効な講座内容となっている可能性がある。今後、助成団体の担当者に講師依頼をするなども含めて、内容の検討が必要と考えられる。

### （2）【NPOの広報講座「パンチの利いたチラシ作り」】 全2回連続

趣 旨： 今後の会員募集、イベント案内その他に活用できるPR方法を団体が知識として取り入れたのち、実践することで活動自体が活性化することをねらいに実施。

講 師： 大淵 優子氏（カクトルデザイン aZ（アズ）代表）・彦坂 久美子氏（同デザイナー）

会 場： さがみはら市民活動サポートセンター会議室

参加費： 1,000 円

定 員： 各 10 名

申込み 8名

第1回 7/10（日）出席者 8名+（視覚障がい者、介添え 1名）

スタッフ等： 1名（スタッフ1名）

図表 22



所 見

アンケート結果から、広報の基本、および具体的方法の学びに関して理解したり知識として取り入れられたりしている事から、講座目的はほぼ100%達成したことがわかる。

講師が一人ひとりに対応したことも、分かりやすい要因になった旨、アンケートに記入されている。講座のタイトルによって、興味を持ち申込みをした参加者もいたことから、講座やイベントのタイトルが重要であることがサポセンスタッフにも理解できたようであった。

第2回 7/24（日）出席者 7名+（視覚障がい者、介添え 1名）

スタッフ等：1名（スタッフ1名）

所見

本講座は、これまで2回連続で実施してきたが、参加者アンケートでは回数と2回の間隔について問うてみたところ、2週間間隔で2回実施が妥当の回答のみであった。広報講座に関しては、形式を継続していきたい。2回目の欠席者が後日「忘れていた」と反省しているため、メールなどでリマインドをすると良かった。その他自由記述には、「実践的で興味深かった」「宿題で作成した成果物を参加者や講師から色々意見がもらえたこと、ほかの作成物をみられたこと」など、好印象の意見が多くみられた。紙媒体でのチラシ作成だったため、SDGsにそぐわないかと危惧していたが、受講者は広報の基本として受け止められた可能性がある。

図表 23



## VI. 市民活動団体の交流機会の提供に関すること（事業計画書 6）による

### 1. ミニミニ利用懇の開催 「NPO ほっとカフェ」

趣旨：登録団体が、団体同士の情報交換の場とし、団体活動の活性化を図ることをねらいとする。登録団体が新たな連携を取る可能性を広げることを目的に、他団体や市民との交流する機会を提供する。

会場：さがみはら市民活動サポートセンター 会議室

#### 第1回 「アトリエさが丸-みんなでパネルをつくっちゃお♪」 7/28（木）14：00～15：30

趣旨：感染症の問題もあり、飲み物等の提供を控える代用として、作業をしながら交流を図ることをねらいとする。パネルの老朽化を鑑み団体にパネル製作作業の場を提供しつつ、同じ目的で集った団体同士の交流をアシストできるよう、パネル担当スタッフとナウのデザイン担当を同席配置して実施。

参加費：200円（1人） 用紙、文具代

申込み：5名（1団体） 参加者：4名

（所見）：参加が1団体であったことから、事業目的の団体間の交流は図れなかった。しかしパネル作製といった目標があったことで、団体メンバー間のコミュニケーションが取れていた様子が見受けられた。スタッフのサポートが良かった様でアンケートの自由記述から読み取ることができた。これは、担当スタッフが、当日の流れのイメージをサポートスタッフにも相談し、情報共有を行っていたことが功を奏したと考えられる。

#### 第2回 「新たな帆を張ろう-団体活動の活力を取り戻す！！-」 9/24（土）14：00～15：30

趣旨：市民活動が停滞している要因は、コロナのほか会員の高齢化、躍進後継者不足など課題は多岐にわたっている。団体の立て直しをするために、どのような方法が考えられるか、ディスカッション形式で検討する機会を提供する。

会場：さがみはら市民活動サポートセンター会議室

申込み：6名 参加者：5名

図表 24



## 所見

アンケート結果から、団体との交流が良かったとの回答が多く、参加することによって新しい団体と知り合ったり交流できたりがあったとの回答が全員からあった。このことからカフェ本来の目的は果たせたといえる。しかしながら、団体にとって今後の活性化につながると思う回答と、つながらないとの回答がほぼ同数であった。これは、それぞれの団体の持つ課題が多様化され、話題になった課題とそうでない場合があった可能性があり、自由記述に「団体の課題は内容の幅が広すぎるためか」とあったことからもう事ができる。

### 第3回「迷えるケアラービギナーズ」12/14（水）14：00～16：00

趣旨：社会が高齢化に向かい、介護を担っている家族親族は将来的にも増加すると考えられる。福祉の面では対策が練られているものの、援助者を支援する視点の活動はいまだ少数である。現在、体験中の団体や市民で交流し、今後の可能性を探ることを目的とする。

申込み：7名 参加者：7名

所見 アンケート結果から、「団体との交流」と「テーマ」が良かったとの回答が多かったうえ、参加者全員が今後の団体活性化につながるかと回答していることからカフェ本来の目的は果たせたといえる。

## 2. 市民活動フェアの実施

### （1）2022年度 相模原市民桜まつり

趣旨：市民桜まつり出展により、多くの市民がサポートセンターを周知し、かつ市民活動への関心を引く契機とする。

昨年度同様、コロナの影響により桜まつりが中止とあったため、出展せず。

### （2）パネル展示会

趣旨：一般市民が、市民活動団体との接点を持つ契機をねらいとして3区および市役所にて実施。登録団体の活動を広く周知し、一般市民や他団体、企業などとコネクションを持つ一助とする。

#### ◆あじさい会館 展示会 ホワイエ（図表 26）

展示期間：2022年8月25日（木）～9月7日（水）

展示団体：24団体

#### ◆市役所 展示会 1階ロビー

展示期間：2022年8月25日（木）～9月7日（水）

展示団体：10団体

#### ◆ユニコムプラザさがみはら（図表 26）

展示期間：2022年10月3日（月）～10月30日（日）

展示団体：22団体

#### ◆ソレイユさがみ であいの広場（図表 27）

展示期間：2022年11月28日（月）～12月14日（水）

展示団体：18団体

図表 25



図表 26



※ 2019年度、団体紹介パネルの規定サイズを変更している。パネルの老朽化のほか団体の活動予定内容や、実施済の内容など情報の更新がされないパネルも見られる。保管中のパネルの中には、事業開始当時に作成されたであろうものがあるため、これらの団体にはメールや電話などで修正や新調の打診をした。しかしながら未更新の団体が多く、返信等の反応のない団体もある。担当者は、今年度中にすべての団体パネルの大きさを統一することを目標に対応した。

図表 27



### 3. さがみはら市民活動フェスタ 2022

趣 旨：市民活動団体がブース出店やステージ発表を通して一般市民と交流することで、それぞれが活動の趣旨や活動内容を広く周知することをねらいとする。団体が物品販売によって活動資金を集めたり、ステージ発表によって活動のモチベーションを上げたりすることで、市民活動の活性化を図ることを目的として開催する。

場 所：横山公園

日 時：11月13日（日）9：30～15：00

参加団体数：ブース出展 25 団体（含 自治会連合会）  
ステージ発表 6 団体

所 見

本年は「ねんりんピックかながわ2022」と同じ会場で行った。スポーツ推進課との打合せを含めて、手続きに時間がかかることが多くあった。

団体に対しては、これまで出店してきた団体にとって会場の不安があることも踏まえ、例年の第1回実行委員会を説明会と銘打って実施。これにより、団体の不安な点なども抽出することができた。説明会終了後に実行委員会を立ち上げ、2回の実行委員会を開催した。

当日の車両乗り入れ及び駐車場の確保に関しては、事務局スタッフで行ったが、大きな混乱がなかった。また、会場の飾りつけは、例年と違う製作をしたが、大変見栄えがして講評だった。

図表 28



### 4. 市民活動団体と大学との交流機会の促進

- ・さがまちコンソーシアムインターンシップ 受入中止
- ・市役所インターンシップ 受入中止

以下、学生個人申請

- ・東海大学政経学部 3年 10/14～11/24
- ・同 2年 10/8～12/11

## VII. その他センターの運営に関すること（ネットワーク事業など）（事業計画書 7）による）

### 1. 相模ボラディア〔相模原市市民活動中間支援施設連絡会〕（市民活動支援 施設との連携）

サポートセンター、ボランティアセンター、国際交流ラウンジの3施設が連絡協議会を設置し、ネットワークを強化。青少年学習センターがオブザーバーとして参加。

- ① 定例会 14回実施

これまでの事業「夏休みボランティアチャレンジスクール」実施方法の見直し。

団体活動紹介用の動画作成を今年度中に実施。

→ 将来的には、ボランティアチャレンジスクールの素材や、ボランティア教育の教材に使用する

受入れ団体 募集：8 団体 応募：11 団体（うち 2 団体が辞退）

実施者（学生など） 15 名募集 参加学生 7 名（うち 1 名辞退、1 名途中辞退）

2023 年 3 月 21 日、学生が制作した動画の投映を行い報告会とした

出席団体数 8 団体

出席学生数 5 名

事業参加団体数 9 団体

② 相談業務の連携 定例会にて、情報共有を行った。

## 2. たすかるバンク

市民活動のさらなる活性化をねらいとし「市内で活動している市民団体」と「社会貢献したい市民」をつなぐことを目的とした人材ネットワークシステム。

(所 見)

図表 29 によると、8～10 月期はニーズが増えており、感染症の対策が構築されつつ活動の再開や、新しい活動が始まった可能性がある。しかしながら、利用する団体の変化はほぼ見られないため、事業自体の広報に課題があると考えられる。また登録人材の高齢化も課題であり、社会的に若年層の収入減少に伴い、企業が副業を認めていることも影響し、若い世代が時間的にも余裕がないのではないかと、登録システムを含めて検討したい。

図表 29

	4～7	8～10	11～1 月	2, 3
人材	3	1	3	2
ニーズ	6	11	2	8
マッチング	3	4	7	5

## 3. 利用者懇談会 & 交流会

2023 年 2 月 12 日（日）産業会館・市民会館

20 周年記念式典として実施。

第一部 記念式典&講演会・シンポジウム

<出席者>

登録団体 70 名 (54 団体)

招待者 32 名

市議会議員 4 名

一般参加者 9 名

登壇者（講師・シンポジスト・市長） 4 名

**計 119 名**

第二部 交流会

<出席者>

登録団体	27名 (22団体)
招待者	15名
市議会議員	1名
一般参加者	3名
登壇者（講師・シンポジスト）	3名
<b>計</b>	<b>49名</b>

(所見)

アンケートでは、基調講演が今後の活動の報告付けを考える機会となったとの回答が多かった。第2部の交流会においても、対面での実施により高評価であった。今後の懇談会参考に成り得る内容であった。

## VIII. その他 付加記入

### 1. スタッフの人材育成に関すること

#### 【内部研修】

趣 旨：スタッフのスキルアップを目的とする。

原則として、月の第4月曜日を研修日とし、センター業務や市民活動に関する基礎知識について学習。また、予定事業の詳細に関して協議および実践実習を行った。

### 2. 外部からの協力依頼

相模原市高齢者障がい者福祉課主催事業「地域活動マッチング相談会」 2023年3月18日(土)

#### 【講演等】

- ・J:COM 取材・収録（水澤 他）  
番組名：ぞっこん相模原  
収録日：8月9日（火）11:00～12:30  
内 容：さがみはら市民活動サポートセンターの周知（環境情報センターともに）
- ・J:COM 番組生出演（水澤）  
番組名：LINE NEWS 放映日：8月26日（金）
- ・田園調布学園大学 人間福祉学部 社会福祉学科教授よりゲストスピーカー依頼（水澤・大谷）  
講義日：2023年1月11日（水）1限  
内 容：さがみはら市民活動サポートセンターの役割

#### 【委員等】

- 水澤：・相模原市：地域づくり大学運営委員
- ・神奈川県：神奈川県ボランティア活動推進基金審査会 委員
- ・大和市：大和市協働推進会議 委員  
大和市市民活動推進補助金 アドバイザー

### 3. 外部からの視察等

8月6日（土）地域づくり大学受講者 施設見学

以上

2023年3月31日（金）